

エッス ころこがく 第12号

江戸時代の干拓堤防 井樋堤塘跡

井樋堤塘は江戸時代に松本四郎左衛門という人が作った干拓堤防です。干拓とは堤防で海を閉めきり、内側の海水を抜いて陸地を広げることです。諫早市飯盛町開地区は江戸時代のはじめまで「月の港」とよばれる入り江でしたが、干拓によって今では田んぼが広がっています。

堤防は入り江が一番せまくなった部分にあります。近くの海岸から数えきれないほどたくさんの石を運んできて、手作業で積みあげて作りました。堤防は河川の改良工事のためになくなりましたが、一部が近くの公園に移築されてだれでも見るできるようになっています。



干拓すれば新しい田んぼが作れる。米が多く取れば諫早の財政も豊かになるやろ！



松本四郎左衛門



空から見た井樋堤塘跡（円で囲った部分）と月の港だった平野

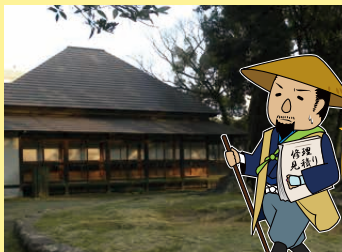


重う!!

堤防は石垣のように石を積んで作られています。中には一人では抱えられないような大きな石もありました。

諫早領主の屋敷

いさはやけ おやしきあと 諫早家御屋敷跡



諫早高校に残る御屋敷の建物



建てた堤防が壊れ... 修理の見積りを... 領主にしつこくあつ

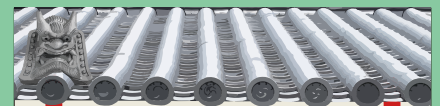


柱の跡が残った石

江戸時代、今の諫早市の範囲はほとんどが佐賀藩の領地で、佐賀藩の家臣である諫早家が治めていました。諫早家の屋敷は今の諫早高校の場所にあり、校舎増築のための発掘調査をおこなったときに屋敷の建物跡が見つかっています。(右写真)

発掘調査で見つかった建物跡のようす。柱の台になる石がならんでいます。

長崎県埋蔵文化財センター ニュース



平成28年度 第3回 オープン収蔵展示 長崎の近世瓦展



H29.2.11～H29.6.4 杵岐市立一支国博物館1F オープン収蔵庫

『長崎の近世瓦展』が始まります！昔の瓦にはいろんな形のものがあるんだよ。葉っぱやちょうちょ、十字架のもようがついたものもあるんだ！瓦の作り方も紹介するよ！